

農業に関する図画コンクール

農業委員会主催の「第23回農業に関する図画コンクール」の入賞者が決まり、11月12日、13日の産業文化祭で作品が展示されました。

応募総数142点。いずれも町内の小学生が、農業について真剣に考え描いた力作ばかりです。ここでは、その中から選ばれた最優秀賞受賞作品と入賞者をご紹介します。<敬称略>



「おうちちゃんちのぼんぼり園」
内藤 竜正（鉢形小3年）
最優秀賞

優秀賞 (8人)	寄居小1年	守屋 茜
	寄居小2年	浅見 つくる
	桜沢小2年	今田 未希
	折原小1年	宮下 遥希
	鉢形小2年	野村 梓乃
	男衾小1年	塩川 真央
	男衾小5年	押田 翠花
	用土小6年	高橋 穂香
優良賞 (25人)	寄居小1年	新井 啓介
	寄居小2年	後藤 大和
	寄居小4年	浅見 良恵
	寄居小4年	松本 知南
	桜沢小2年	杉浦 日夢
	桜沢小2年	八木 大彩
	桜沢小2年	菊地 雷磨
	桜沢小2年	倉林 憲吾
	桜沢小3年	笠原 伊織
	桜沢小4年	廣島 伊咲
	桜沢小5年	岩崎 茉那
	桜沢小5年	室岡 卷也
	折原小2年	藤山 巧
	折原小4年	稲山 直弥
	折原小6年	黒瀬 直篤
	鉢形小1年	坂本 亜寿美
	鉢形小3年	熊野 汰玖斗
	鉢形小6年	齊藤 史織
	男衾小2年	光岡 初音
	男衾小4年	白木 結菜
	男衾小5年	舍利弗 啓
	用土小1年	松本 あやめ
	用土小3年	筑比地 遥香
	用土小4年	高橋 愛未
	用土小5年	高橋 愛未

産業文化祭表彰



農家の皆さんが、丹精込めて育てあげた品々が出品された共進会。ここでは入賞者をご紹介します。

<敬称略>

埼玉県知事賞	そさい類	梅澤 功	今市
	植木類	新井 由一	用土5
	乳牛	茂木 城守	立原
寄居町長賞	芋類	栗原 肇	下郷
	そさい類	荒木 順一	用土7
	蚕繭	池田 卓	用土5
	乳牛	嶋田 治彦	塚越
寄居町議会議長賞	玄米	福島 和夫	用土6
	芋類	新井 くに	男衾下郷
ふかや農業協同組合 代表理事組合長賞	植木類	金子 理一	上平下郷
	雑穀類	小林トヨ子	用土8
寄居町議会総務経済常任委員会委員長賞	芋類	坂本 幸江	上ノ原
	そさい類	梅澤 竜麻	今市
寄居町農業委員会長賞	植木類	中島 賢司	用土10
埼玉県中央部森林組合代表理事組合長賞	植木類	大島 薫	用土9
全国農業協同組合 連合会埼玉県本部 運営委員会長賞	麦類	梅澤とみ子	今市
	茸類	内田 平三	牟礼
	雑穀類	松本 幸男	用土7
埼玉県畜産会長賞	芋類	堤 克美	上組
	果実類	小山 丈夫	今市
埼玉県農業共済組合 連合会長賞	植木類	野澤 和廣	用土12
	乳牛	島田 栄一	用土4
埼玉北部農業共済組合長賞	果実類	坂本 勝己	風布
	植木類	小島 誠	用土10
埼玉県酪農協会長賞	乳牛	丸橋 高記	用土4
	芋類	原口 國八	上ノ原
寄居町畜産振興 協会長賞	乳牛	齊藤 悦雄	用土12
	乳牛	齊藤 悦雄	用土12
	乳牛	茂木 城守	立原
寄居町産業文化祭 実行委員会長賞	乳牛	加藤 憲治	用土7
	乳牛	茂木 城守	立原
	果実類	大久保恒子	赤浜
	植木類	福島 茂	用土10
	植木類	小林 成行	用土8
	植木類	清水 武	用土10

瑞宝双光章受章!



浅見武司さん
(牟礼)

浅見武司さんは、昭和43年に埼玉県警察官を拝命。暴力団担当刑事を振り出しに、捜査四課、機動捜査隊、小川警察署長、捜査一課、同三課、刑事総務課長などを歴任され、平成17年に草加警察署長で退職されました。その間、約30年を刑事部門に従事されました。

今回の受章について「現在は、安全で安心して暮らせる地域社会の実現と警察活動の推進に協力しています。受章を亡き両親に報告するとともに、これまで支えてくださったすべての方々に感謝したいです」と話してくれました。



片山幸秋さん
(男衾下郷)

片山幸秋さんは、昭和39年に埼玉県警察官を拝命。その年は東京オリンピックの年で、警察学校生ながら会場警備に当たられました。その後、県西部～北部を中心に活躍され、42年間の長きにわたり警察活動に尽力されました。

今回の受章について「在任中は主に交通部門の事故捜査係を担当し、年間20件余りの交通死亡事故を取り扱ってきました。今後は、陰ながら事件、事故が減少するようお手伝いさせていただきます」と話してくれました。

中学生の税についての作文

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会では「税についての作文」を募集し、11月11日から17日までの「税を考える週間」に合わせて優れた作品の表彰をしています。11月16日に熊谷文化創造館さくらめいとで、表彰式が行われました。町からの入賞者をご紹介します。

富山県を走っている万葉線は2002年まで加越能鉄道という名前の民営鉄... 日本各地にはたくさんの方々のローカル線が存在します。私はローカル線が大好きです。ローカル線には都会の鉄道にはない魅力があるからです。その魅力の一つに人と人とのつながりがあります。あるローカル線の駅で電車を待っているとき、隣におばあさんがやってきました。そこにまた別のおばあさんがやってきて二人で話していました。その後、おばあさんが乗って来た電車に乗り込んでいました。その電車は駅に停車するたびに「こんにちは。」や「さようなら。また今度。」という声が車内に響いていました。鉄道は場所と場所を結んでいるだけではなく、地域のひととひとをつなぐものでもあります。その後、「利用客が少ない路線を沿線の自治体が税金の活用によって廃止にならないようにした。」という記事を新聞で見ました。鉄道にも税金が使われていることを知り、税金の必要性を再確認しました。その記事には、その鉄道会社が第三セクター鉄道になったと書いてありました。第三セクター鉄道とは沿線自治体や国と鉄道会社がお金を出し合い新たな会社を作りその会社によって列車の運行をすることです。

日本にはたくさんの方々のローカル線があります。ローカル線は乗る人は少ないですが、どの路線も地域の人にはなくてはならない路線です。私は沿線住民の暮らしを支えるローカル線が税金によって運転されていることは素晴らしいことだと思っています。今回は私の趣味である鉄道のことから税金は様々な形ですが、このように税金は様々な形で私たちの生活を支えてくれているはすです。みんなが安心して暮らせる町づくりのため、税をきちんと納める責任と義務を果たす大人になっていきたいです。

埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

「税金を納める」とは
市川紗百（寄居中1年）

寄居町長賞

「税金の使われ方」
岡野未来（男衾中2年）

寄居町教育委員会教育長賞

「祖父は税金で守られていた」
西 優紀（寄居中2年）

「鉄道と税金」

前田 大我（城南中3年）



埼玉県納税貯蓄組合
総連合会優秀賞

道でした。加越能鉄道は利用客の減少のため鉄道を廃止する意向を県に伝えました。しかし、県と沿線自治体は加越能鉄道を進展する高齢社会への福祉対策や、都市の個性の象徴として、まちづくりにも活用できることを理由に税金を使って存続することを決めました。税金によって、お年寄りの方が乗りやすいように車両の新調や駅のバリアフリー化を進めました。又、バスや船との乗り換えも円滑にできるようにしました。効果的な税金の活用の結果、現在は黒字営業になっています。

岩手県の海沿いを走る三陸鉄道は東日本大震災によって甚大な被害を受けました。従来の災害復旧時には、鉄道会社が三分の一を払っていました。三陸鉄道は被害が大きかったため復旧は絶望的と思われていました。しかし、国は復興特別税などの税金によって全額を負担し三陸鉄道を復活させました。税金によって復旧した三陸鉄道は東日本大震災の復興の象徴となりました。税金は東日本大震災の被災者の方々に希望を与えました。